



日本人とインドネシア人によるAI活用支援 老舗餅屋とコンサルティングの複合ベンチャー

[取材・文] 原 正紀

株式会社クリティック・オブ・ライフ代表取締役、株式会社リカバリーコンサルティング協議会常務理事・事務局長、一般社団法人留学生支援ネットワーク理事、一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム理事・事務局長、高知大学経営評議会委員、各員教授、中小企業診断士。早稲田大学法学校卒業後、株式会社リクルートを経て起業し、人材事業を産官において展開。公的委員多数歴任、「インタビューの教科書」（同友館）はじめ、著書多数。

HARA's BEFORE

日本人とインドネシア人留学生が共同で起業し、AIを活用したビジネス開発支援モデルに取り組んでいる新興企業「ネクストクリエイション」。これから日本が取り組むべき、新たな起業や事業創出の形が見えると期待している。



独自のAIツール「Aideation」

原：まずは現状のビジネスを教えてください。

清藤：私は親の事業を継ぐなど複数の企業を経営していますが、ネクストクリエイションは副社長のギランと創業した企業です。2人は立命館大学の同期生で、学生時代にビジネスコンテストで優勝などもしており、会社自体は当時から創業していました。その後しばらく休眠していたのですが、私がやっているビジネスも含めてグループ経営で、ホールディングカンパニーも設立し、ギランのテクノロジーをベースに開発したサービスを展開しているところです。

会社のコンセプトとしては、「共創を通じてビジネスの課題解決と、イノベーションの実現を支援するアザインファシリテーション会社」をうたっています。企業や公共機関、教育機関などに、事業デザインや人材育成の外部パートナーとして当社を迎えてもらうことで、組織内や市場との不整合を早期に発見して解消し、とてもスピーディに競争力を強化できます。現状は私とギランがファシリテーターとしてサポートしています。

ギラン：当社では、大きく分けて3つの事業を開いています。

まずは共創を通じてビジネスの課題解決を行う、共創型ワークショップのファシリテーションサービスです。主に企業の戦略や企画立案を支援するものです。ワークショップでは参加者が持つ情報を集め、当社の技術でそれを可視化することで、誰が提案した、どのような課題を解決するかという課題発見ワークショップと、それに向けてのコンセプト立案やプロセスを体系的に進行し、参加者が効果的に協働・共創する場をつくります。

2つ目の事業は、ワークショップでアイデアを出して終わりではなく、それを具現化するために需要性や市場性を検証し、サポートしていくものです。ワークショップで考えたコンセプトを具現化し、アプリなどを使ってプロトotypingをして、早い段階でアイデアの価値を検